

## H27 新興国学生大使派遣プログラム

山形から世界へはばたけー海外でグローバル力を磨くー

医学部・医学科・1年・15411040・倉井 侖

○派遣先大学：ガジャマダ大学、インドネシア

○派遣期間：平成27年9月4日～平成27年9月18日

### ○日本語教室での指導内容

月曜日から金曜日までの週5回、10:00～11:30と13:30～15:00の1日2回授業を行ないました。日本語を話せない人はビギナークラス、日本語を話せる人はアドバンスクラスと2つに分けて行ないました。午前の授業は10人ほど、午後は20人ほどの学生が来てくれました。ビギナークラスでは、疑問詞、形容詞、観光に使える日本語、道案内、建物名、天気、職業名、体の部位の名前、人の性格、趣味、動詞と過去形などを教えました。ビギナークラスの学生は、私たちの書いた板書を丁寧にノートに写したり、分からないことはすぐに質問したりと、とても積極的に授業に参加してくれていました。アドバンスクラスでは、漢字、日本のゲーム、日本についてのディスカッションなどを行ないました。アドバンスクラスの学生はそれぞれ日本人である私たちより日本について詳しい分野があるので、授業内容を考えるのが難しかったです。

私はクロスワードを作って一緒にやりましたが、難しいと思っていた言葉がすぐにわかったり、日本人にとって簡単な言葉でもなかなか出てこなかったりと意外なことが多く驚きました。漢字検定の問題を出したときは、10・9級くらいは簡単に読めてしまったので改めてガジャマダ大学の学生はすごいなと感心しました。



### ○日本語教室以外での現地での交流活動

土・日曜日の授業がない日には、現地の学生たちにジャワ島の様々な観光スポットに連れてってもらいました。Nglamborのビーチ、マリオボロ通り、ガジュマルの木、ボロブドゥル寺院、ボコ遺跡などです。また、朝7時から屋外のバスケットコートで現地の学生とバスケットボールをしました。相手のチームはその日初めて会った学生たちでしたが、言葉が通じなくてもスポーツで交流することができるということがとても嬉しかったです。夜には大学構内で‘jogja japan week’というイベントが開催されていて、現地の学生がとても上手に日本の歌を歌っていて感動しました。イベントの最後に「盆踊り」をしていたのですが、日本でやる盆踊りとは全く違うもので面白かったです。授業後に英会話サークルの日本についてのディスカッションに参加したときは、現地の学生たちがとても速くて流暢な英語を話すので圧倒されてしまいました。相手の英語を理解することも、自分の言い

たいことを英語で伝えるのもとても難しかったです。また、農学部の教授であるアカマデ先生ホームパーティーに招待してもらったり、農学部のイベントに参加したりもしました。イベントでは、山形大学の学生で「ドラえもののうた」を歌ったり、インドネシアの音楽で踊ったりして楽しかったです。現地での移動手段は主にバイクだったので現地の学生の後ろに乗せてもらいました。私は今までバイクに乗ったことがなかったので少し怖かったけど、日本ではできない良い経験ができました。

#### ○プログラムに参加した感想

以前から海外に行きたいとは思っていたものの、一人で行くのは怖いし費用も高いのでなかなか踏み出せずにいました。このプログラムでは、山形大学の別の学生もいるし補助金も出るので思い切って参加することにしました。インドネシアに着くまでは不安が大きかったけど、現地では多くの仲間と出会い、毎日楽しい日々を送ることができました。初めて海外に行って自分の英語力のなさを痛感し、帰国後新たな学習目標を持つことができました。派遣期間は2週間と短い期間でしたが、日本では得ることのできないものをたくさん手に入れることができました。このプログラムに参加して本当によかったです。

#### ○自分の目標の達成度や努力した経緯など

このプログラムに参加するにあたって、私は3つの目標を立てました。1つ目は、自分で考え創意工夫することです。ビギナークラスでは日常生活でよく使う日本語を考えて教え、アドバンスクラスでは自分よりも日本について知っている学生が楽しめるように授業内容を工夫しました。現地では創意工夫することができたと思います。2つ目は、海外の文化や生活を学ぶことです。特に私は、日本ではあまり感じるることのできない宗教について、実際に信仰心を持つ人との交流を通して知りたいと考えていました。インドネシアでは、宗教が生活に大きく影響していることを知ることができました。また、別の信仰を持つ人々が同じ大学内にいることに対して、日本人として少し不思議に思いましたが、その事を受け入れて生活する現地の学生から異文化理解ということ学びました。3つ目は、語学力の向上です。これは、現地の学生が日本語を話せたので英語を話す機会が少なく、あまり達成できませんでした。



#### ○今後の展望

現地の学生は、夜から朝方まで勉強していると話していて、自分がいかに勉強していなかったかを痛感しました。また、現地で自分に英語力がないことを改めて知り、自分の言いたいことを英語で伝えられるようになりたいと思いました。学習意欲の高い現地の学生との交流が良い刺激となって、帰国後もっと勉強したいという意欲がわき、自分の新たな目標を見つけることができました。